



Newsletter of Center for the History of Meiji University

ニュースレター 明治大学史 No.12



アジア留学生研究会台湾調査にて辛忠道南台科技大学理事長（写真左から3番目 明治大学校友）と（2015年2月）

目次

（巻頭言） 大学史資料センターの研究活動 山泉 進 2

特集 センター調査報告 3

I 創立者関係／II 人権派弁護士関係／III アジア留学生関係／IV 昭和歌謡史（阿久悠）関係／
V 子母澤寛関係／VI 佐々木味津三関係／VII 栗塚省吾関係／VIII 岩佐斎（才）吉関係

2014年度 大学史資料センター事業報告 7

明治大学史資料センター規程 11

大学史資料センター刊行物案内 12

私学の誕生 明治大学の三人の創立者／木村礎研究 戦後歴史学への挑戦／布施辰治研究／三木武夫研究／明治大学小史 人物編／阿久悠研究（大学史紀要第19号）／明治大学アジア留学生研究Ⅱ（同第20号）
／大学史活動 第36集

(巻頭言) 大学史資料センターの研究活動

明治大学史資料センター所長
山泉 進

大学史資料センターの活動を支える中心的な役割として研究活動があることはいうまでもありません。これまで、資料センターには「創立者研究会」「人権派弁護士研究会」「財界人研究会」「アジア留学生研究会」「昭和歌謡史研究会」という5つの共同研究会を設置してきました。今年度からは「特別資料研究会」を加えました。これは、資料センターが保存する特別な資料の閲覧や公開に関して、運営委員会全体での承認を得るために、事前に資料価値を研究・検討するための機関として設置しました。その意味では、直接的に研究を目的とする他の研究会とは少し性格を異にするものでありますが、個人情報を含む資料の公開に関しては、それなりに研究者としての判断が必要であるとの趣旨から、研究会組織に加えました。

資料センターが所蔵する資料については、公開することを原則としていることはいうまでもありませんが、特定の資料については公開を制限しています。利用制限については、1968（昭和43）年に規程第28号で定められた「文書の整理及び保存に関する規程」に基づいておこなわれています。この規程のなかでは理事会資料のような特定の資料については保存年限が定められ、期間中は公開を禁止することが定められています。くわえて、保存年限を過ぎた資料についても、個人情報保護法や国立公文書館法に準じて、個人の権利や利益を損なうおそれがある資料、また寄託者や寄贈者からの資料公開についての注文がなされている資料についても利用を制限することを定めています。これについては2006年12月の運営委員会で承認されました。

「特別資料研究会」が検討の対象とする資料は、センターに寄贈された個人資料の

うち、三木武夫・尾佐竹猛・山崎今朝弥・岡正雄などの関係資料で、日記などの個人情報を含むものを主たる対象とし、くわえて若干の事務文書についても公開に判断を必要とするものを対象としています。もちろん、これらについては、資料価値についての専門的知識を必要とするという要請にもとづいて研究会が組織されました。

大学関係資料の収集・整理保存・公開については、将来的には大学アーカイブス（文書館）においておこなわれる必要があることはいうまでもありませんし、そのなかに現在の大学史資料センターの役割が、どのように統合化されるのかについても早急に検討しなければならない課題となっています。資料センターでは、この点について、センター内に検討委員会を設置したり、京都大学をはじめとする他大学の大学文書館を訪問したりして、検討を開始していますが、まだまだ基本方針を固めるにはいたっていないのが現状です。

資料センターの研究会は、限られたマンパワーと資金のなかで精いっぱいの研究活動をおこなってきました。その成果は、『大学史紀要』の年2回の刊行ばかりではなく、布施辰治や尾佐竹猛の著作集の刊行、あるいは尾佐竹猛・布施辰治・三木武夫・木村礎研究として単行本化してきました。さらには『明治大学小史』（通史編・人物編）の刊行も実現してきました。そして昨年度末には『私学の誕生—明治大学の三人の創立者』を創英社／三省堂書店から出版しました。研究活動なくして資料センターなし、明治大学史資料センターは、この言葉をモットーにして前進していきます。

特集 センター調査報告

大学史資料センターは明治大学のアーカイヴズとして、大学が歩んできた歴史に関する様々な調査・資料収集活動を行い、蓄積した資料を整理して基礎資源として各種問い合わせへの対応、成果物等の刊行、展示会等を開催しています。本号では2014年度に実施した調査をご紹介します。

I 創立者関係

○創立者岸本辰雄関係聞き取り調査

〈2015年3月17日（火） 大学史資料センター閲覧室〉

創立者研究会（研究代表 山泉進法学部教授〔センター所長〕）では、この3月に『私学の誕生——明治大学の三人の創立者』（創英社／三省堂）の執筆及び編集をはじめ、明治大学創立者である岸本辰雄・宮城浩蔵・矢代操に関するさらなる知見を図るべく調査を進めています。

このたび岸本辰雄の子孫にあたる岸本澄子氏（岸本の孫である岸本孝雄氏〔故人〕令夫人 写真右）とそのご長男の幸雄氏（同左）にお話を伺いました。澄子氏は、克明なご記憶にもとづき、岸本家に伝わる半井桃水や花井卓蔵と岸本の交友関係、家庭人としての岸本、また住まいの変遷等について貴重なお話をいただきました。また幸雄氏は澄子氏とともに、岸本家の系図についてご教示をくださいました。今後係累の皆様や創立者の生誕地の関係者の方々から引き続きご協力を頂戴しながら、創立者に関する研究を一層推進していく予定です。

（吉田悦志・野尻泰弘・村松玄太・阿部裕樹 ※以上調査者。以下同）



II 人権派弁護士関係

○人権派弁護士研究会調査

〈2014年8月25日（月）～8月27日（水） 布施辰治関係調査（岩手県盛岡市）、山崎今朝弥・阿保浅次郎調査（青森県弘前市）〉

第2期人権派弁護士研究会（研究代表 山泉進法学部教授〔センター所長〕・村上一博同教授〔センター運営委員〕）では司法の世界で多大な実績を挙げた明治大学出身者について調査を進めています。今回は布施辰治、山崎今朝弥、阿保浅次郎の事績を中心に調査を行いました。

25日は岩手大学において、同大名誉教授早坂啓造氏から、同氏が「国際コモンズ学会」において小繋集落（二戸郡一戸町）の入会慣行と小繋事件裁判について報告した際の資料などについてお話をうかがった後意見交換を行いました。小繋事件においては、その初期段階に布施辰治が弁護を務め、『奥の入会紀行』などの関係資料が遺されています。また『マッキーン博士らの岩手訪問と講演会（2013年6月8日～12日）』等の資料を受贈しました。岩手大学での会合には、布施研究で交流のある岩手日報論説委員の黒田大介氏と、同氏の紹介で国立歴史民俗博物館共同研究員の中田英樹氏が参加しました。26日は、弘前学院資料室および弘前学院付属聖愛中学高等学校図書室において、山崎今朝弥関係資料調査を実施しました。最終日となる27日は弁護士として実績を残し、明治大学理事長もつとめた阿保浅次郎の実家を訪問し、お話を伺いました。



岩手大学図書館にて（前列左から2番目が早坂啓造氏、後列左端が中田英樹氏）

（山泉進・村上一博・長沼秀明・飯澤文夫・中村正也・阿部裕樹）

Ⅲ アジア留学生関係

①韓国校友へのインタビューおよび資料調査

〈2014年9月12日（金）～14日（日） 韓国ソウル市〉

アジア留学生研究会で（研究代表 高田幸男文学部教授〔センター運営委員〕）は、明治大学が受け入れた多数のアジア留学生のことを中心に研究を進めています。2012年度から2014年度まで、人文科学研究所の総合研究「アジアの政治社会の民主化と明治大学留学経験についての総合的研究」の採択を受けて調査を進めました。2014年度は、総合研究の一環として前年に引き続きアジア地域で現地調査を実施しました。12日は任甲寅氏（1942年専門部法科卒、弁護士）および嚴泰又校友会大韓民国支部幹事長（1976年法学部卒）にインタビューを行い、明治大学留学の経緯や日本での留學生活の様子などについてお話を伺いました。任氏からは「私の特研時代」（コピー）、履歴書、明治大学卒業証書（コピー）、高等試験司法科試験合格証書（コピー）等を受贈いたしました。

13日は張斗建氏（1943年専門部法科卒）にお目にかかりました。張氏は、著名な画家として活躍されています。明治大学での画家としてのご活躍と戦前期における明治大学での学びについてお尋ねをいたしました。

両インタビューに際しては終始朴元錫校友会大韓民国支部長（1960年法学部卒）およびインタビューにも御協力頂いた嚴幹事長にも同席頂きました。朴支部長からは学生時代のテキスト、当時の学部事務室からの案内、卒業後の大学からの書簡等を受贈しました。ご協力に厚く御礼申し上げます。

（高田幸男・山泉進・村上一博・秋谷紀男・土屋光芳）



（上）任甲寅氏（右から3人目）、朴元錫氏（右端後）、嚴泰又氏（左から2人目）
（下）張斗建氏（左から3人目）、朴氏（左端）、嚴氏（右端）

②台湾明治大学校友へのインタビューおよび資料調査

〈2015年2月26日（金）～3月1日（日） 台湾台北市・台南市・新北市〉

留学生として明治大学で学んだ後、台湾で活躍した校友の方々に関する調査を実施しました。まず、台南市長をつとめた辛文炳（1936年法学部卒）について、辛の創設した南台科技大学において令息の辛忠道氏（同大学理事長）とそのご家族からお話を伺いました。辛忠道氏も明治大学の政治経済学部を卒業されています。同氏から父親である辛文炳のお話を伺うとともに、忠道氏ご自身の留學経験についても伺いました。また大学内に設置されている辛文炳記念室を見学しました。

翌日は曹伯輝氏にインタビューを行いました。同氏は政治経済学部を中退されています。同氏はインタビュー時96歳の高齢でしたが、父との葛藤から中央大学に留學していた兄を頼って日本内地に渡り、明治大学に入学した経緯、苦学の末中退し、上海に渡って日本軍の配給組合で働き、台湾へ引き揚げた直後、二二八事件に遭遇したことなど、生々しい貴重な証言を得ることができました。

その他二二八和平公園と中正紀念堂で民主活動や人権活動の状況を調査し、重慶南路書店街の三民書局で台湾史・台湾人物関係書籍を購入しました。

今回は、校友でもある江旭本氏、陳乃慈氏、および事前の準備をしてくださった校友会台湾支部前幹事長顏光甫氏の協力を得て調査を実施しました。ご協力に厚く御礼申し上げます。

（高田幸男・山泉進・村上一博・土屋光芳）



曹伯輝氏（右から2人目）と

Ⅳ 昭和歌謡史（阿久悠）関係

①小林亜星氏インタビュー

〈2015年1月14日（水） 都内〉

2012年設置の昭和歌謡史研究会（研究代表 吉田悦志国際日本学部教授〔センター副所長〕）では、作詞家・阿久悠を中心とした昭和歌謡をめぐる研究を進めています。

現在、ご遺族や関係の方々とは協力しながら阿久悠にゆかりのある方々へのインタビューや、膨大な資料の検討を進めています。

その調査の一環として、阿久悠とタッグを組み「ピンポンパン体操」や「北の宿から」など、数々のヒット曲を作った小林亜星氏にお話を伺いました。本聞き取りには阿久悠令息の深田太郎氏、阿久悠の所属事務所であった株式会社オフィス・トゥー・ワンの長谷川敦氏が参加しました。

小林氏からは克明な記憶に基づいて、阿久悠との思い出とその仕事について貴重なお話を伺うことができました。

（吉田悦志・村松玄太）

②齋藤柳光氏聞き取り

〈2015年3月26日（木） 明治大学史資料センター〉

阿久悠のご遺族や関係者と、明治大学との関係構築に尽力をされた齋藤柳光氏（校友会副会長 明治大学マスコミクラブ会長）にお話を伺いました。

齋藤氏は阿久悠が生前、故郷のような神保町、駿河台、御茶ノ水にある明治大学で自らの仕事を後世に伝えられたら、と語っていたことを知り、そのことを大学側に知らせるとともに、阿久のご遺族や事務所関係者と大学関係者を引き合わせるなど、関係を築くことに尽力されました。齋藤氏のお話から、こうした関係構築が、

2011年の阿久悠記念館開館への端緒となったことがよく理解できました。齋藤氏はまた、「日刊スポーツ」記者として多年にわたって活躍され、明治大学マスコミクラブ会長もつとめておられます。齋藤氏にはこれらの活動や、明治大学校友会でのご活躍についてもお伺いいたしました。

研究会では引き続き、阿久悠と様々な局面で関わった人々について、聞き取り等を通して研究を進めていくことにしています。

（吉田悦志・村松玄太）



V 子母澤寛関係

○ 子母澤寛関係資料調査

〈2014年8月29日（金）～31日（日）北海道石狩市、札幌市〉

作家・子母澤寛（1892-1968 法学部卒）は、『新選組始末記』『勝海舟』『座頭市物語』など、テレビドラマや映画の原作となった歴史小説・時代小説において数多くの作品を遺し、1962年には菊池寛賞を受賞しました。

29日は北海道立三岸好太郎美術館（札幌市中央区）および三岸の生誕地（同左）を巡見しました。三岸は子母澤の異父弟にあたります。下母澤のルーツを知ることを目的とするものです。同日の調査では、三岸の伝記や関係論文なども収集しました。翌30日は、子母澤の郷里である北海道石狩市厚田区にて、関係地（厚田資料室、梅谷家の跡地等）の巡見および聞き取り調査を行いました。子母澤の実家である梅谷家は、角鉄（カクテツ）という屋号で商売をしており、菊池氏の記憶を頼りに跡地を巡見しまし



厚田資料館でお話を伺う

た。子母澤の血縁的なルーツ（特に父親）については、「ヤンシュウ」と呼ばれる本州からくる漁師などとの関係もあり、不明な点が多いことを再確認できました。菊池翠氏（郷土史家、子母澤寛を読む会）を中心に、高田靖仁氏（石狩市職員）、中根誠治氏（厚田資料室サポートの会）の皆様から、子母澤寛と厚田について種々お話を伺いました。

（吉田悦志・阿部裕樹）

Ⅵ 佐々木味津三関係

〈2014年11月20日（月）・12月8日（月） 都内〉

作家・佐々木味津三（1896—1934 政治経済学部卒）は、後年しばしば映画化・テレビ化された『右門捕物帖』『旗本退屈男』シリーズなど、大衆時代小説の世界で大きな活躍をした人物です。

このたびご遺族の加藤弥生氏（佐々木の孫）と山崎祥一氏（佐々木の甥）から、佐々木に関する各種関係資料のご寄贈を受けました。

資料内容は、アルバム・映画「旗本退屈男」シナリオ・プロマイド・書簡・佐々木手稿・トランク・遺影・褒状等です。また加藤氏・山崎氏からは、詳細な家系図等のご寄贈も受けました。センターではご寄贈頂いた資料の整理を進め、今後研究や展示等に広く活用したいと考えています。

（吉田悦志・村松玄太）



資料実見の様子

Ⅶ 栗塚省吾関係

〈2014年11月24日（月）福井県越前市〉

栗塚省吾（1853-1920）は、大学南校、司法省法学校、フランス留学で明治大学創立者とともに学びました。帰国後は創立者たちと同様司法官僚として活躍し、大審院判事部長をへて、退官後は衆議院議員をつとめました。今回の調査では越前市（旧武生市）立中央図書館所蔵の「栗塚省吾文庫」の整理・所蔵状況を調査しました。栗塚のパリ大学卒業論文をはじめ、磯部四郎、光明寺三郎関係の貴重資料も多数ありました。また同館長の土井晶子氏と情報交換を行いました。今後創立者研究と並行して調査を進めていく予定です。

（村上一博・阿部裕樹）

Ⅷ 岩佐斎（才）吉関係

〈2015年3月27日（金）～29日（日） 島根県松江市〉

岩佐斎（才）吉は明治法律学校に学び、1885（明治18）年の第一回判事登用試験に合格しました。翌年判事試補となりますが、わずかな期間で依願免職し、郷里の島根県隠岐で戸長をつとめました。今回は島根県立図書館および松江市立中央図書館において、岩佐に関連する地域資料の収集を行いました。また併せて1890年の『山陰新聞』掲載商法典論争関係新聞記事の収集を行いました。

（村上一博）

明治大学史に関する資料の情報提供のお願い

どんなことでも結構ですので、明治大学の歴史や卒業生に関する資料や情報の提供をお待ちしております。よろしくお願いいたします。

電話 03-3296-4329・4085（担当 村松・阿部）

2014年度 大学史資料センター事業報告

1 資料の調査・収集・公開

各部署で所蔵する、保存年限は終了したものの歴史的価値を有する学内文書の調査・移管を随時実施しました。部署により文書の保存状態はまちまちであり、これらの文書には劣化が進んでいるものも数多くあります。従前から取り組んでいる関係部署との連携をより深め、劣化の著しい文書類については速やかに移管を進めて整理・保存のための措置を講じ、大学アーカイヴズとしての機能強化を図っています

創業者・著名校友（昭和歌謡関係者・財界人関係者）・アジア留学生等に関する資料の調査・収集についても継続して推進しています（詳細は本誌「センター調査報告」参照）。

蓄積した資料や情報は校史を明らかにする材料としてばかりではなく、研究資源として学内外に幅広く公開します。2014年度は約200件の照会に対応しました。

2 編集・刊行

調査・収集の成果を学内外に広く公開するため、以下の刊行物を編集・刊行しました。

- ① 報告集『大学史活動』第36号
- ② 論文集『大学史紀要 第19号 阿久悠研究』
『同 第20号 明治大学 アジア留学生研究 II』
- ③ 広報誌『ニュースレター 明治大学史』第11号（本誌）
- ④ 『M-style』連載「大学史の散歩道」執筆（年7回）
吉田悦志「大学史の散歩道No.135 映画監督・五社英雄（商卒）と作詞家・阿久悠（文卒）とそして女優・夏目雅子の《点と線》」『M-STYLE』No.65 2014年4月
山泉 進「同136 「大学史」の効用」同No.66 2014年5月
村上一博「同137 台湾覆審法院判検事 早川彌三郎」同No.67 2014年6月
阿部裕樹「同138 生田駅の歴史」同No.68 2014年7月
高田幸男「同139 経緯学堂と中国人速成留学」同No.69 2014年9月
村松玄太「同140 50年前の学園祭」同No.70 2014年10月
秋谷紀男「同141 植村直己没後三〇年と明治大学」同No.71 2014年11月
吉田悦志「同142 歴史の塵塚にかなしい鶴がいた 一石狩海岸の映画・音楽・文学と歴史」
同No.72 2015年1月
- ⑤ 広報誌『明治』連載「目で見える明治大学の歩み」執筆（年4回）
村松玄太「目で見える明治大学の歩み56 明治・大正・昭和の駿河台キャンパス周辺」『明治』第62号 2014年4月
阿部裕樹「同57 昭和の生田キャンパスとその周辺」同63号 2014年7月
村松玄太「同58 創業者・矢代操」同64号 2014年10月
阿部裕樹「同59 農学部と理工学部の歴史」同65号 2015年1月

3 教育

駿河台・和泉・生田・中野キャンパスにおいて「学部間共通総合講座 明治大学の歴史」を開講しています。明治大学で学ぶ学生に、自分の学んでいる大学がどのような理念で設置され現在に至っているのか、そして大学の特色がどこにあるのかを知らせ、大学をより身近に感じ、大学生生活を豊かにすることを目的としています。

4 展示

大学の理念や歩みを幅広い層にわかりやすく伝えていくため、センターで収集・所蔵している資料の展示を実施しました。

- ① 大学史展示室（常設展示 駿河台キャンパスアカデミーコモン地下1階）
- ② 阿久悠記念館（常設展示 同）
- ③ 大学小史展示（企画展示 駿河台キャンパス大学会館1階）
- ④ 和泉小史展示（企画展示 和泉キャンパス第一校舎1階）
- ⑤ 明治大学の創立者たち（企画展示 和泉図書館ギャラリー）

5 社会教育

内外の幅広い層に向けた公開講座等を実施し、「開かれた大学」としての社会的使命を果たします。2014年度は明治大学リバティアカデミー講座「阿久悠論—昭和歌謡の巨星—」（全5回 2014年5月12日から6月16日まで）、2014年10月19日（日）開催の同公開講座「人ありて明治!!!」（いずれもコーディネーターは吉田悦志副所長）を共催しました。

6 大学史資料センター運営委員会・研究会等

2014年度にセンターで開催した各種会議・研究会等は以下の通りです。

※構成員の肩書は2014年現在。

① センター運営委員会

第67回	2014年 3月27日（木）	議題	2014年度大学史の散歩道への寄稿について 他
第68回	2014年 4月23日（水）	議題	今年度のセンター課題について 他
第69回	2014年 5月28日（水）	議題	2015年度学部間共通総合講座について 他
第70回	2014年 7月23日（水）	議題	『大学史紀要』第19号の編集について 他
第71回	2014年 9月24日（水）	議題	学内文書の閲覧希望について 他
第72回	2014年10月22日（水）	議題	『大学史紀要』第19号の編集について 他
第73回	2014年12月17日（水）	議題	『大学史紀要』第20号の編集について 他
第74回	2015年 1月28日（水）	議題	センター運営委員・正副所長について 他
第75回	2015年 3月25日（水）	議題	新規研究会の設置について 他

② 創立者研究会

（構成員 山泉進所長【代表】 村上一博委員 野尻泰弘研究調査員 村松玄太【事務局】 阿部裕樹【事務局】）

第7回	2014年5月14日（水）	内容	『明治大学の創立者』（仮称）の編集状況について
第8回	2014年7月16日（水）	内容	『明治大学の創立者』（仮称）の刊行スケジュール

③ 人権派弁護士研究会（第Ⅱ期）

（構成員 山泉進所長【代表】 村上一博委員 飯澤文夫研究調査員 長沼秀明研究調査員 中村正也研究調査員 阿部裕樹【事務局】）

第30回	2014年 3月27日（水）	内容	来年度以降の研究会活動について 他
第31回	2014年 4月23日（水）	内容	吉田三市郎関係資料の受贈について 他
第32回	2014年 5月21日（水）	内容	『解放群書』調査状況の大学史紀要投稿 他
第33回	2014年 7月30日（水）	内容	小繋事件・入会事件等について 他

○夏季調査合宿 2014年8月25日（月）～8月27日（水） 場所 青森県弘前市、岩手県盛岡市（詳細は特集参照）

- 第34回 2014年12月17日(水) 内容 『解放群書』書誌情報の確認と刊行について 他
 第35回 2015年 1月28日(水) 内容 『解放群書』書誌・布施辰治シンポについて 他

④ アジア留学生研究会

(構成員 高田幸男委員【代表】 山泉進所長 村上一博委員 秋谷紀男委員 土屋光芳研究調査員
 鳥居高研究調査員 李英美研究調査員 山下達也研究調査員 鈴木将久研究調査員 長沼秀明研究調査員
 阿部裕樹【事務局】)

- 第27回 2014年 1月24日(水) 内容 『大学史紀要』第18号の編集について 他
 第28回 2014年 4月16日(水) 内容 『大学史紀要』第18号の執筆分担について 他
 第29回 2014年 5月21日(水) 内容 アジア教育史学会との共催シンポジウムの計画につ
 いて
 第30回 2014年 6月18日(水) 内容 共催シンポジウムの準備状況、韓国・台湾調査の予定 他
 ○呉念聖氏研究報告会「呉朗西の日本留学」 2014年 7月 2日(水)
 第31回 2014年 7月16日(水) 内容 共催シンポジウムの準備状況 韓国調査の予定 他
 ○国際シンポジウム「近代アジアと『留学経験』—第二次世界大戦前の留学を中心に」
 2014年8月9日(土) (詳細は本記事の「7」を参照)
 第32回 2014年 8月28日(水) 内容 重慶師範大学靳明全先生との交流会 他
 第33回 2014年 9月24日(水) 内容 平成27年度科学研究費補助金への応募について 他
 第34回 2014年10月 1日(水) 内容 校友会大韓民国支部長朴元錫氏インタビュー 他
 第35回 2014年10月15日(水) 内容 平成27年度科学研究費補助金への応募について 他
 第36回 2014年12月 3日(水) 内容 吉見崇氏による「中国国民党政権の検察改革」についての
 報告 大学史紀要第20号の構成について
 第37回 2015年 1月21日(水) 内容 台湾調査について 他

⑤ 財界人研究会

(構成員 秋谷紀男委員【代表】 村上一博運営委員 白戸伸一研究調査員 阿部裕樹【事務局】)
 第3回 2014年10月15日(水) 内容 江旭本氏による「明治大学出身台湾財界人(とくに林頂立・
 葉廷珪・辛文炳)について」報告 他

⑥ 昭和歌謡史研究会

(構成員 吉田悦志副所長【代表】 山泉進所長 奥原淳子研究調査員 小笠原渉元運営委員 村松玄太
 【事務局】 阿部裕樹【事務局】)
 第11回 2014年3月24日(金) 内容 論文構想発表
 ○小林亜星氏聞き取り 2015年 1月14日(水)
 ○齋藤柳光氏聞き取り 2015年 3月26日(木) (いずれも詳細は特集参照)
 ※このほか、収蔵資料に関する検討会を2014年12月11日(木)・2015年1月29日(木)・3月24
 日(火)に開催しました。

7 国際シンポジウム「近代アジアと『留学経験』—第二次世界大戦前の留学を中心に—」を開催しました（アジア教育史学会との共催 2014年8月9日）

明治大学史資料センターアジア留学生研究会は、アジア教育史学会との共催で国際シンポジウム「近代アジアと『留学経験』—第二次世界大戦前の留学を中心に—」を開催しました。本シンポジウムは、明治大学人文科学研究所総合研究「アジアの政治社会の民主化と明治大学留学経験についての総合的研究」の成果の一端を示すとともに、広くアジア教育史学の研究者との意見交換を行うことを目的に、開催されたものです。

研究会からは土屋光芳研究調査員（政治経済学部教授）が基調報告を兼ねて東アジアにおける「留学経験」について概観する報告を行ったほか、研究協力者の李恩元氏（明治大学大学院政治経済学研究科博士後期課程）が韓国から明治大学に学び「衡平運動」を行った張志弼に関する報告を行いました。さらに、中国からは呉念聖氏（早稲田大学中国現代文化研究所招聘研究員）がアナーキスト呉朗西の上智大学留学について、台湾からは蔡錦堂氏（台湾師範大学台湾研究所所長）が戦前の台湾人留学生の弁護士資格取得とその台湾への影響について、そして日本留学との対比で、長谷部圭彦氏（明治大学文学部兼任講師）がオスマン帝国からヨーロッパに派遣されたムスリム・非ムスリムの留学生について報告を行いました。続くシンポジウムでは、「留学経験」がアジア各地の国家建設や民主化等にどのような影響をもたらしたのか、留学元や留学先によってどのような特徴がみられるのか等について活発な議論がかわされました。本シンポジウムの模様は、『大学史紀要第20号 明治大学アジア留学生研究Ⅱ』（2015年3月刊）に収録されています。

8 明治大学・鯖江市連携事業「矢代操と明治大学」講演会並びに展示会協力及び矢代操旧宅地跡への説明板設置を行いました（2014年11月22日）

明治大学と創立者矢代操の出身地である鯖江市は2011年に連携協力に関する協定を結び、鯖江市への学生派遣プログラムや同市での公開講座実施等を通して交流を図っています。また明治大学では、2012年に鯖江市屋形町に所在する創立者矢代操旧宅地を取得しました。昨年11月、センターが中心となって旧宅地に矢代操の事績を紹介する説明板を設置するとともに、社会連携事務室主催イベントの講演会「矢代操の1歩と明治大学」（村上一博委員）、併催のミニ展示会に協力をいたしました。

大学史資料センタースタッフ一覧（2015年10月1日現在）

所 長 山 泉 進（法学部教授）

副 所 長 吉田 悦志（国際日本学部教授）

運営委員 村上 一博（法学部教授）

同 秋谷 紀男（政治経済学部教授）

同 高田 幸男（文学部教授）

同 岩崎 宏政（社会連携事務長）

（以上、センター規程第8条第1項第3号に基づく委員）

同 奥住 賢二（総務部長）

同 鈴木 優一（総務課長）

（以上、センター規程第8条第1項第4・5号に基づく委員）

○事務局（総務部総務課〈大学史資料センター担当〉）

村松 玄太 杉林真由美

直井 哲也 阿部 裕樹

森本 訓子（嘱託） 林 艶子（嘱託）

吉田晋一郎（嘱託）

明治大学史資料センター規程（2002年度規程第10号）

（設置）

第1条 学校法人明治大学（以下「本法人」という。）に、明治大学史資料センター（以下「センター」という。）を設置する。

（目的）

第2条 センターは、本法人の歴史（以下「校史」という。）に関する調査、研究並びに校史に係る資料（以下「資料」という。）の収集、保存及び公開を行い、もって本学の発展に資することを目的とする。

（事業）

第3条 センターは、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 校史の調査及び研究
- (2) 校史の編集
- (3) 資料の収集、整理及び保存
- (4) 資料の展示
- (5) 展示場の管理・運営
- (6) 校史に関する情報の提供等
- (7) 出版物等の編集・刊行
- (8) 講演会等の実施
- (9) その他必要な事業

（組織）

第4条 センターは、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 所長
- (2) 副所長
- (3) 第8条第1項第3号に定める運営委員
- (4) 第8条の2に定める研究調査員
- (5) 総務部総務課長及び事務職員

2 前項に掲げる者のほか、センターは、事業計画の実施上必要があるときは、嘱託を置くことができる。

（所長）

第5条 所長は、センターの業務を総括し、センターを代表する。

2 所長は、専任教員である運営委員の中から、運営委員会が理事長に推薦し、理事会において任命する。

3 所長の任期は、2年とする。ただし、補欠の所長の任期は、前任者の残任期間とする。

4 所長は、再任されることができる。

（副所長）

第6条 副所長は、所長を補佐し、所長に事故あるときは、その職務を代行する。

2 副所長は、所長が理事長に推薦し、理事会において任命する。

3 前条第3項及び第4項の規定は、副所長の任期及び再任について準用する。

（運営委員会）

第7条 センターに、次に掲げる事項について審議するため、運営委員会を置く。

- (1) センターの事業計画に関する重要事項
- (2) センターの管理・運営に関する重要事項
- (3) 校史の調査及び研究に関する事項
- (4) その他運営委員会が必要と認めた事項

（運営委員）

第8条 運営委員会は、次に掲げる運営委員をもって構成する。

- (1) 所長
- (2) 副所長
- (3) 校史に関して専門知識を有する専任教職員の中から、運営委員会の推薦に基づき、理事長が理事会の同意を得て委嘱する者若干名
- (4) 総務部長
- (5) 総務部総務課長

2 運営委員の任期は、職務上運営委員となる者を除き、2年とする。ただし、再任を妨げない。

3 補欠の運営委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（研究調査員）

第8条の2 センターに、研究調査員若干名を置くことができる。

2 研究調査員は、本学教職員の中から、所長が運営委員会の同意を得て委嘱する。

3 前項の規定にかかわらず、運営委員又は研究調査員が退職する場合であって、当該者に継続して校史の研究を行わせることが適切であると所長が認めるときは、退職後も引き続き研究調査員として委嘱することができる。

（委員長及び副委員長）

第9条 運営委員会に、委員長及び副委員長を置く。

2 委員長には所長を、副委員長には副所長をもって充てる。

3 委員長は、運営委員会の議長となる。

4 副委員長は、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

（会議）

第10条 運営委員会は、委員長が招集する。

2 運営委員会は、運営委員の過半数が出席しなければ、会議を開き、議決することができない。

3 運営委員会の議事は、出席運営委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

4 理事長は、運営委員会に出席し、意見を述べるることができる。

5 運営委員会は、必要に応じて、運営委員以外の者を出席させることができる。

（事務）

第11条 センターに関する事務は、総務部総務課が行う。

（規程の改廃）

第12条 この規程を改廃するときは、運営委員会の議を経て、理事会が行う。

（雑則）

第13条 この規程に定めるもののほか、センターの管理及び運営に関し必要な事項は、運営委員会の議を経て定める。

附 則（省略）



私学の誕生 明治大学の三人の創立者 〈創英社／三省堂書店刊〉

明治大学史資料センター編 四六判並製 240頁 定価1,700円+税(2015・3)

明治大学創立者岸本辰雄、宮城浩蔵、矢代操を紹介する初めての公式本。第一部では創立者たちと出身藩である岸本と鳥取藩、宮城と天童藩、矢代と鯖江藩との関わりを紹介する。第二部「明治大学の誕生」では、「貢進生」として上京した三人が明治法律学校を創立するに至るまでの道のりを紹介する。第三部では、「創立者たちの遺したもの」と題して、明治法律学校創立以後の経歴と業績、その後の顕彰運動を取り上げる。



木村礎研究 戦後歴史学への挑戦 〈日本経済評論社刊〉

明治大学史資料センター編 A5判上製 256頁 定価3,500円+税(2014・8)

木村礎は戦後日本の歴史学研究をリードし、近世村落史研究の画期を築いた。村を歩き、古文書調査と歴史資料保存の方法論を確立した。また、明大学長を務め「大学史」に力をつくした。その一端を明らかにする木村礎研究会の成果。付・年譜、文献目録。

好評既刊



布施辰治研究 〈日本経済評論社刊〉

明治大学史資料センター監修 山泉進・村上一博編著 A5判上製 328頁

定価4,000円+税(2010・12)

日本のシンドラーとも呼ばれた「人権派弁護士」布施の多面的な活動を史料とともに検証する。



三木武夫研究 〈日本経済評論社刊〉

明治大学史資料センター監修 小西徳應編著 A5判上製 400頁 定価5,200円+税(2011・10)

国民を恐れ、政党政治の未来を信じた「議会の子」三木武夫元首相。その実像に迫る。



明治大学小史 人物編 〈学文社刊〉

明治大学史資料センター編 四六判並製 248頁 定価2,300円+税(2011・10)

明治大学が輩出した人物を大学行政・アカデミズム・法曹・政治・財界・作家・芸能文化・スポーツの諸分野から119名を精選して紹介。

定期刊行物

阿久悠研究 大学史紀要第19号 A5判並製 420頁 (2014・11)

作詞家・作家阿久悠の人物と作品、歌詞の語彙、令息深田太郎氏との対談、ディスコグラフィ等昭和歌謡の巨星をめぐる昭和歌謡史研究会の研究成果。

明治大学 アジア留学生研究Ⅱ 大学史紀要第20号 A5判並製 174頁 (2015・3)

「アジアの中の明治大学を探る」アジア留学生研究会の試み。2014年9月開催の国際シンポジウム「近代アジアと『留学経験』」記録を収録。

大学史活動 第36集 A5判並製 122頁 (2015・3)

大学アーカイヴズ担当者による最新成果報告。

ニュースレター明治大学史 No.12

<http://www.meiji.ac.jp/history/>

発行日 2015年11月10日

編集・発行 明治大学史資料センター 所長 山泉 進

所在地 101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1 電話 03-3296-4329・4085 FAX 03-3296-4086